

第10回 帝京大学OB・OG教職の会

～大学と教育現場を繋ぐ～

教職センターでは、2013年度に教育委員会や学校との連携を図るため本会を発足し、本学卒業生で教育界において活躍されている学校の教職員や教育行政職の方々と、情報交換や実践発表、懇親会などを通して、ネットワークづくりを推進してまいりました。

その結果、これまで多くの自治体（学校）関係者との交流が図られ、その時々のお情報をご提供いただくとともに、教育実習の受け入れや学生への指導・助言等、教員養成や教員採用に関する事業へのご協力をいただいております。

第10回を迎える今年度は、新型コロナウイルス感染症対策における「大学の方針」を踏まえたプログラム（1部構成）で、対面・オンライン方式で開催しました。

本会の発足にご尽力いただいた教育学部長和田孝先生のご挨拶の後、3人の先生から、学校での取り組みについてご発表いただきました。



プログラム

- 1) 挨拶 主催者挨拶・来賓挨拶
- 2) 幹事紹介
- 3) 管理職の紹介
- 4) 事例報告
- 5) 質疑・意見交流



武蔵村山市立雷塚小学校 校長 三品 孝之 先生

東京都人権教育推進校として日々の教育活動を進められていることや、教育課程編成の際に教員からの発案で、あゆみの発行回数を変えたことなど、管理職の立場から、学校の取り組みについてお話しいただきました。

なお、教職大学院での学びが先生の「考え立ち向かっていく勇氣」となっているとのことでした。



稲城市立第六小学校 教諭 東 早希穂 先生

1・2年目と最初は分からない中でも精一杯取り組んできたことが、着実に自分の力となり、3年目の今年はその蓄えられた力が発揮できているとのことでした。また、学校の中での役割も増し、そのことに伴い自分の研修意欲が高まったということです。

なお、「一生懸命取り組んだ時間が、必ず何とかしてくれる。」ということ、強く感じていると話されていました。



東大和市立第十小学校 教諭 田口 光彩 先生

3年間たくさんの本を読み、勉強して自分の引き出しを増やすことに心掛けたとのことでした。またその「学ぶ」ということが、子供や保護者の信頼を得ることにもつながり、結果として、自分自身の仕事がスムーズにできるようになっているとのことでした。

なお、具体的な本の紹介とともに、現役学生へ先輩教員としての力強いメッセージを伝えていただきました。

会の終了後には学生と現職の先生方が交流する時間を設けました。

学生は先輩に教育に係る質問をし、また先輩とのつながりを築くことができる有意義な時間になりました。

帝京大学OB・OG教職の会では、皆様のご参加をお待ちしております。なお、参加いただくためには本会に登録いただくことが必要です。

参加を希望される方は下記問い合わせ先「帝京大学教職センター」またはお問い合わせフォーム二次元バーコードよりご連絡ください。ご連絡をいただきましたら、入会のためのフォームをメールで送らせていただきます。



お問い合わせ ☎ 042-678-3993